

Notes

四国新産のバラ科オキナワバライチゴ (中澤 保^a, 大橋広好^b)Tamotsu NAKAZAWA^a and Hiroyoshi OHASHI^b: A New Distribution of *Rubus okinawensis* Koidz. (*Rosaceae*) in Shikoku, Japan

Summary: *Rubus okinawensis* Koidz. is newly reported from Shikoku. It has previously been recorded in southern Kyushu (southern Miyazaki and Kagoshima Prefectures), the Ryukyus, and disjunctively in Shimoda, Shizuoka Prefecture in central Honshu. Plants of the species were found in two localities in Kochi Prefecture: Sumiyoshi in Kōnan-shi and Nishibun in Geisei-mura. Populations of both localities are small and close to each other, but appear to be natural. Another population found in Ukibuchi in Kuroshio-cho is apparently introduced, probably from the Ryukyus or Taiwan together with import of *Cycas revoluta* Thunb., *Washingtonia filifera* (Lind. ex Andre) H. Wendl. and *Livistona chinensis* (Jaquin) R. Br. ex Martius var. *subglobosa* (Hassk.) Beccari for plantation along a road to golf links.

オキナワバライチゴは宮崎県南部、鹿児島県および沖縄県に分布が知られていたが (Naruhashi 2001), 最近になって著しく飛び離れた静岡県下田市須崎のご用邸敷地内でも発見され、日本国内の分布図も発表された (近田他 2004)。このたび、この種が四国でも発見された。高知県香南市夜須町住吉 (旧香美郡夜須町住吉) の海岸で中澤による確認である。中澤は2002年にはじめて住吉の住吉神社崖下で花実のない高さ30 cmほどの不明の *Rubus* 個体に気付き、以後この *Rubus* に注意していた。この間近田他の報告 (2004) があり、さらに2008年3月24日に花も確認して、これをオキナワバライチゴと判断した (Fig. 1)。この標本は大橋も同種と追認した。

その後、中澤は高知県立牧野植物園標本室 MKB の所蔵標本を調べ、芸西村西分 (Fig. 2) と黒潮町浮鞭から採集されていることを知った。これらの標本はオオバライチゴと同定されていたものであったが、2007年8月に同園小林史郎氏によってオキナワバライチゴと再

同定されていた。そこで、これらの2地点をも調べ、両地ともに現在もオキナワバライチゴが生育することを確認した。

以下順に3生育地について述べる。

住吉神社の崖下の生育地はおよそ北緯33度31分、東経133度46分 (本文の緯度経度は国土地理院地図閲覧サービスに基づく。数値は分までの単位とし30秒以上を分に切り上げた概数である)、海拔約5 m、海辺には約3 mのコンクリートブロックがあるが、高潮のときにはこれを越えて林の際まで木片などが打ち寄せられている。生育地の上方の斜面にはウバメガシが主で、ヒメユズリハ、マサキの混ざる林があり、附近にはアコウ、トベラ、シャリンバイが見られた。オキナワバライチゴは砂岩・泥岩 (頁岩) の互層地の風化土が溜まった自然状態の痩せ地であるが、上部斜面が崩壊する危険性がある。自生地ではダンチクの根元に2株だけみられ、1本は高さ約150 cm、根元直径11 mmで、他の1本は高さ約120 cm、根元直径6 mmである。

安芸郡芸西村西分は住吉神社下の生育地に近く、その東約300 mのところにある。10年位前にできた西分漁港の岸壁から約100 m内陸で、海拔約3 mである。北緯33度31分、東経133度46分。2008年4月29日に岡崎達彦氏の協力を得て中澤がオキナワバライチゴ20個体近くを確認した (Fig. 2)。成熟した果実も見られた。まわりは丘陵地に囲まれて、南向きに開いた三角状の土地の荒れた畑の奥の斜面際で、オキナワバライチゴは日当たりがよくて風当たりが少ない場所に生育し、付近はツルソバ、セイタカアワダチソウ、ダンチクなどに被われていた。この海岸は漁港建設以前は磯であった。磯は地質学上「メランジュ帯」と呼ばれる特殊な岩石群であり、漁港の東側に高知県天然記念物指定地域として残されている。

三番目は高知県幡多郡黒潮町浮鞭 (旧大方町浮鞭) で、土佐くろしお鉄道浮鞭駅の北で、



Fig. 1. Voucher specimen of *Rubus okinawensis* collected on 24 March 2008 in Sumiyoshi, Yasu-cho, Kochi Pref. (T. Nakazawa TUS 355104).

およそ北緯33度3分、東経133度2分の地点にある。2008年4月30日に浮鞭でオキナワバライチゴを最初に採集した地元の田城光子氏の案内で、岡崎達彦・渡辺允史両氏と共に調査した。ここの生育地は海岸から直線で1.1–1.2 km、海拔約50 m、30年ほど前にできた土佐ユートピア・カントリークラブというゴルフ場への専用道路を300 mほど上がった所である。高さ幅共に15 mほどの残土処理跡地があり、その急斜面のメダケ、ハウライチクなどの林縁に多数個体が見られる。専用道路沿いにはソテツ(100株以上)、ワシントンヤシ、ビロウなどが植えられている。オキナワバライチゴ生育地近くのソテツの株元にはヤンバルツルハッカが生育し、シマキケマンも以前は生育していたという。

以上の3地点の生育地をみると、住吉と西分とは生育地の環境から判断して天然分布であると思われる。おそらく海流によって運ばれた可能性がある。それに比べて、浮鞭のオキナワバライチゴ個体は、ゴルフ場建設の時ソテツなどを移入した際に、それらに混じって移入されたもので、人為的な分布と推定される。オキナワバライチゴの証拠標本は東北大学植物標本館 TUS に保存する。

なお、高知県ではオオバライチゴが安芸、室戸、土佐清水、大月などで海岸近くの林床や疎開地に生育すると記録されており(山中1978)、さらに近年では四万十町、須崎市、奈半利町にも知られている。

Rubus okinawensis Koidz.: Naruh. in Ono & al., Revised Makino New Illust. Fl. Jap.: 280, fig. 1117 (1989) & in K. Iwats. & al., Fl. Jap. **IIB**:

162 (2001); Konta, Katsuy. & Naruh. in J. Phytogeogr. Taxon. **52**: 192 (2004).

Voucher specimens of natural distribution: Shikoku. Kochi Pref., Kōnan-shi, Sumiyoshi, seaside, alt. ca. 5 m. 24 March 2008. T. Nakazawa (TUS 355104); Aki-gun, Geisei-mura, about 100 m inland from Nishibun Gyokō, alt. ca. 3 m. 29 April 2008. T. Nakazawa (TUS 356969, 356971).

Specimens probably introduced: Kochi Pref., Hata-gun, Kuroshio-cho, Ukibuchi, in the territory of Tosa Utopia Country Club, north of Ukibuchi Railway Station, alt. ca. 50 m. 30 April 2008. T. Nakazawa (TUS 356970, 356972).

終わりに、現地調査にご協力下さった岡崎達彦と渡辺允史両氏、浮鞭の産地を案内して下さいました田城光子氏、住吉の地質についてご教示下さった鈴木堯士高知大学名誉教授、オキナワバライチゴの標本を調査させていただいた高知県立牧野植物園標本室(MKB)にお礼申し上げます。

引用文献

- 近田文弘, 勝山輝男, 鳴橋直弘 2004. 伊豆須崎のオキナワバライチゴ. 植物地理・分類研究 **52**: 192–194.
Naruhashi N. 2001. *Rubus* L. In: Iwatsuki K., Boufford D. E. and Ohba H. (eds.), Fl. Jap. **IIB**: 145–169.
山中二男 1978. 高知県の植生と植物相. 林野弘済会高知支部, 高知.

(*高知県南国市

██████████ Nankoku, 783-██████████ JAPAN;

^b東北大学植物園津田記念館

^bBotanical Garden, Tohoku University,

Sendai, 980-0862 JAPAN;

E-mail: ohashi@mail.tains.tohoku.ac.jp)